



令和8年3月13日
府中市立南町小学校
校長 渡邊 和子

令和7年度 府中市立南町小学校 学校経営報告

1 今年度の取組と自己評価

(1) 教育活動への取組と自己評価

- 「たくましい子」 主体的に学び、健康な生活を促進し、最後まで責任をもって、やり遂げる力【実践力】

「たくましい子」の目標について、年間の取組みを通して以下の成果を得た。

- ◎「令和5年・6年度 東京都体育健康教育推進校」の研究発表を校内研究で継続し学校だけでなく家庭での取組みも継続実施した。保護者の学校評価では「運動や遊びを通して体力を高めている」という項目で85%（前年比+4%）の肯定的評価を得た。また、84%（+1%）の児童が「運動する時間をふやそうとしている」と回答した。わずかではあるが前年と比べプラスになり、体力の向上や健康への意識が継続して上向いている。
- ◎年間を通して、始業前のストレッチや昼休みの運動を全校で実施したり、1学期「体力テスト」2学期「マラソン」3学期「なわとび」と集中して全校で取組み、運動の習慣化につながった。「ふちゅうロープチャレンジ」には、全学年がチャレンジし、4年、5年、特別支援学級「仲よし学級」で上位入賞を果たした。中でも5年2組が準優勝、1組が上位入賞と健闘した。

- ◎「思いやりのある子」 自他の人格を尊重し、豊かな心情をもって、共に生きることができる力【人間関係形成力】

「思いやりのある子」の目標について、年間の取組みを通して以下の成果を得た。

- ◎教育の重点として「みんなは一人のために 一人はみんなのために」～ One for all All for one ～を掲げてきた。保護者の学校評価で「友達と仲良く生活している」は92%（+1%）の肯定的評価を得た。また、96.7%（+2.7%）の児童が、「友達にやさしくしようと心がけている。」と回答した。前年に比べ、わずかであるがプラスの評価になった。
- ◎ふれあい月間の取組として、6月に「人権標語」の取組、11月に「ココロの天気予報」、2月に「ありがとうの木」の取組を実施した。「ありがとうの木」は昨年度は1本だったが今年度は2本に増えた。児童の周りの人に対する感謝の気持ちを表そうとする心情が、前年と比べると2倍になったのは、うれしい成長である。6年生は「人権」をテーマにした人権作文の取組に参加し、人権尊重の精神を養えた。

○「努力する子」 基礎学力を身に付け、課題にすすんでチャレンジし、主体的に考え、判断し、創造的に粘り強く行動する力【問題解決力】

「努力する子」の目標について、年間の取組みを通して以下の成果を得た。

◎保護者の学校評価「学習や行事などの目標に向けて努力している。」は90%（-1%）の肯定的評価を得た。また、90.9%（+4.9%）の児童が「学習や行事などの目標に向けて、努力している」と回答した。

◎教育の重点として「自慢できるクラス、学年をつくろう。誇れる学校をつくろう。」と掲げた。令和7年度が本校の「50周年」の年度だったので、1学期の「運動会」をはじめ、「記念式典」はもとより、全ての行事に「50周年記念」の冠を付けて実施した。3学期の「展覧会」では、周年行事として保護者、地域、職員の作品も展示し、6年生がガイドを分担して担ったが大変好評を博した。様々な学校行事をやり切った達成感を味わい、児童の愛校心や誇りに思う気持ちは、大変高まった。

《目指す教職員像への取組と自己評価》

「地域協働・チーム南町小・笑顔の学校」

- (1) 教職員がそれぞれの持ち味を発揮し、創意とチャレンジの気概をもって活躍し、協働できる組織力の高い職場づくりを推進する。
- (2) 「OJT」に取り組み、経験の多少にかかわらず学び続ける。
- (3) 「分かる・できる」「確かで豊かな学びのある」授業を実践する。
- (4) 児童の「安全・安心」に常に配慮し、環境を整え、行動する。
- (5) 教育相談体制を整え、特別支援教育を推進する。
- (6) 学校を保護者、地域に開き、連携する。「創立50周年行事」を皆で創り上げる。
- (7) 法令遵守、服務規律を徹底する。「学校監査」に丁寧に対応する。
- (8) 矢崎小・府中三中との小中連携、近隣幼稚園、保育園との幼保連携教育を推進する。
- (9) 働き方改革を促進する。
- (10) 危機管理を徹底する。

「目指す教職員像」について、上記の取組みを実施し、以下の成果を得た。

(2) 校内研究会、職員会議や職員夕会の時間枠を有効活用し、「ミニ研修会」などの「OJT」に取り組んだ。若手、ベテランに関わらず、一人の百歩ではなく、全員の一歩として日常での「学び続ける習慣」が身に付いた。

(6) 関係各所と連携し、「水害避難訓練」「地域総合防災訓練」などの防災面、また、「50周年行事」の準備委員会などで、さかんに活動ができ、地域、保護者、学校との連携を強くすることができた。

(8) 「小中連携の日」を中心に、授業改善、生活指導での連携など、三中学区の小中一貫教育の推進ができた。「み・そ・あ・じ」の生活態度の指針は、本校の「あいさつ運動」や「チャイム着席・着席チャイム」の取組みで具体的に連携できた。

(9) 学校経営支援事業・副校長等校務改善事業を有効に活用し、教員にしかできない時間の確保ができ、授業の準備にあてることができた。

児童の重点目標への取組と自己評価

1 「たくましい子」

オ 自己肯定感をもち、意志決定力を育み、すすんで活動する。

【目標：自己評価 75%以上】

2 ◎「思いやりのある子」

ア 礼儀正しい挨拶が、すすんでできるようにする。

【目標：学校評価85%以上 自己評価85%以上】

3 「努力する子」

オ 主体的に学習に取り組む態度を養う。

●自分で目標を立てられるようにする。意思決定力を育む。

●読書にすすんで取り組む。

【目標：3年生以上 学年×1, 000ページ以上、達成率65%

1年生100冊以上、2年生200冊以上、達成率80%以上】

「児童の重点目標」について、上記の取組みを通して、以下の成果を得た。

「たくましい子」オ 自己肯定感をもち、意志決定力を育み、すすんで活動する。

【目標：自己評価 75%以上】

◎保護者の学校評価「学校は一人一人の子供のよさを認め、励ますことを大切にしている。」項目で79%（-4%）の肯定的評価を得た。目標値には達成したものの、前年比を下回っている。毎日の教育活動の中で、一人一人の子供のもつよさに気づき、認め合えるように、「教師の励まし」や「子供からの称賛」を丁寧に届けていく。

「思いやりのある子」ア 礼儀正しい挨拶が、すすんでできるようにする。

【目標：学校評価85%以上 自己評価85%以上】

◎保護者の学校評価「自分から挨拶できる。」の項目で74%（+2%）の肯定的評価を得た。また、80.4%（+0.4%）の児童が「自分からすすんで挨拶できる。」と回答した。わずかであるが、評価が前年を上回っていた。来年度は、たてわり班で挨拶当番を実施する日を増やし、更に気持ちのよい挨拶ができる子供たちに育てていく。

「努力する子」オ 主体的に学習に取り組む態度を養う。

【目標：3年生以上 学年×1, 000ページ以上、達成率70%

1年生100冊以上、2年生200冊以上、達成率80%以上】

◎全校で学期ごとに読書旬間を設け、取り組んだ。結果は、下記のとおりである。

- ・1年生 19, 6%（+0, 6%）
- ・2年生 1, 5%（-3, 5%）
- ・3年生 28%（+18%）
- ・4年生 27. 4%（+13, 4%）
- ・5年生 14, 6%（+0, 6%）
- ・6年生 12, 3%（-7, 7%）

◎保護者の学校評価「本に親しみ、よく読んでいる。」の項目では、56%（+4%）の肯定的評価であった。これは、全項目の中で2番目に低かった。また、児童の「読書を楽しみ、よく本を読んでいる。」の回答は、67, 9%（+3, 9%）であった。

学校評価アンケートでは前年度よりプラスの評価が出てきているが、具体的な読書達成率の目標と実際を比べるとあまりに差が開きすぎているので、記録の付け方及び目標設定については、全教職員で共有認識し、よく検討する必要がある。

(2) ー2 教職員の重点目標と方策

「教職員の重点目標」について、年間の取り組みを通して以下の成果を得た。

(3) 「分かる・できる」「確かで豊かな学びのある」授業を、組織を活用し実践する。

【目標：学校評価80%以上】・週案簿の提出、100%を継続する。

◎保護者の学校評価「学校は分かる、できる授業に努めている。」の項目で84% (+5%) の肯定的評価を得た。また、94, 7% (+1, 7%) の児童が「授業で学習したことが、分かっている」と回答した。アンケートからは、肯定的評価が微増しているが、次年度以降も授業改善プランの更なる工夫や学力向上の手だてが必要である。

◎週案簿の提出、100%は継続できた。「発見・対話・決定・表現」を意識し学習や中心の授業が実践できるよう、指導を継続する。

◎校内研究の研究主題を「学習の基盤をつくる活動の充実」副題を～協働的に学ぶ「学び方」の構築に向けて～とし、令和7・8年度の2年計画で、まずは希望の3分科会に分かれ研究をスタートした。1学期は生活・総合分科会、2学期は体育分科会、3学期は国語分科会で授業提案をし、学習の基盤、協働的な学び方について検討を重ねた。3つの授業を通して「学びのサイクル」という授業展開のあり方を共有することができたので、次年度に生かしていく。

(4) 児童の「安全・安心」に常に配慮し、環境を整え、行動する。

【目標：学校評価80%以上】

◎保護者の学校評価「学校は、交通安全指導や様々な避難訓練を通して『安全・安心』に努めている」の項目で、92% (+1%) の肯定的評価を得た。児童の自己評価では、94, 8% (-1, 2%) が「自分の安全は自分で守ろうと心がけている。」と回答した。次年度は、避難訓練を更に実際を想定したものに近づけていく。また、「南町小地域防災連絡会」の支援を得て、「水害避難訓練」や「総合防災訓練」を継続していく。

(6) 学校を保護者、地域に開き、連携する。「創立50周年行事」を皆で創り上げる。

【目標：学校評価80%以上】

◎保護者の学校評価「学校はお便りやホームページ、保護者会、土曜公開授業などを通して、保護者、地域に学校での教育活動を分かりやすく伝え、公開している。」の項目で、93% (+1%) の肯定的評価を得た。「地域協働、チーム南町小、笑顔の学校」を合言葉に、次年度も更に、学校の情報発信に努め、地域に根差した学校づくりを実践する。また、「50周年実行委員会」の協力を得て、「創立50周年記念式典」を滞りなく挙行することができた。南町小学校を大切に思ってください地域の皆さんに喜んでいただけた。

(9) 働き方改革を促進する。

【目標：全教職員 9月までに1か月の定時外在校等時間 45時間未満】

◎全教職員、1か月の定時外在校等時間の45時間未満を達成することはできなかった。男性教員の育児休暇取得は達成できた。引き続き、学校経営支援事業、副校長等校務改善事業、ICTの有効活用、業務の効率化、合理化を推進する。

2 次年度以降の課題と対応策

- ◎府中市教育委員会からまとめられた「積極的な熱中症対策」に全教職員で取り組む。
- ◎資質・能力を育成するために教科の授業を中心に全ての教育活動において、4つの視点、「発見」「対話」「決定」「表現」を取り入れた活動を実施し、学習者中心の授業を実践する。(週案への記載、黒板への提示) 次年度は、府中市全体の府教研での授業や小中連携の日の授業においても取り入れ、実践を積み重ねる。
- ◎人材育成・OJT 研修の充実～シャドワーイングの実践～

若手教員、経験の浅い教員が、学級経営力や学習指導、生活指導の力量が高まるように研修のやり方に工夫を加える。教育現場の実際の場面でベテランの教員や指導技術のある教員がどのように指導しているのか「シャドワーイング」の技法を活用して研修計画を立て、実践し、その効果を検証する。
- ◎カリキュラム・マネジメントを推進し、教育目標の達成を図る。
 - ・教育目標をよりよく達成するために、組織としてカリキュラムを動かし、変えていく、継続的かつ発展的な課題解決の営みを推進する。
 - ・昨年度改善した、校務分掌の更なる改善を図る。教職員が適切に役割を分担しつつ、相互に連携しながら、南町小の特色を生かしたカリキュラム・マネジメントを実践できるようにする。
 - ・教科担任制など、学年で取り組めるところは取組み、授業の質を高め、学習効果を上げる。
 - ・学校評価（教職員評価＋保護者評価＋児童自己評価）を教務主幹を中心として、12月から1月でまとめ、2月に公開する形式に改善する。
- ◎「サポートルーム」の運営について、改めて全校で共通認識をし、運営のマニュアルを作成する。サポートルームが教室に行くことに抵抗のある児童の「安心」できるよりどころとなり、教室への滑走路的な場所となるよう、支援のあり方を検討する。生活指導主幹が中心となり特別支援教育コーディネーターとサポートルームスタッフが共に検討する組織を立ち上げる。
- ◎「ふくむニュースレター」など、サービスに関する通知は、チームスにアップし、読後、確認の返信を全員に求めた。常にサービス事故は誰にでも起こりうるという謙虚さや危機管理意識をもって業務にあたり、「サービス事故0」の継続に真摯に取り組む。
- ◎学校図書館部を中心に読書の推進を図る。「おすすめ本カード」の作成、掲示や「読書郵便」、「親子読書」の活動を通して、校内で図書情報を共有し、読書の楽しさを共感できるようにし、読書の習慣を身に付けられるようにする。また、「読書貯金通帳」や「読書レストラン」など、発達に合わせた読書カードを活用し、読書の記録を丁寧に取れるよう工夫する。